

令和4年度第1回墨田区保健衛生協議会(書面開催)においていただいたご意見とご回答の一覧表

議題	該当箇所、事業	ご意見	回答
墨田区保健衛生協議会 について	開催方法について	開催方法について、書面ではなくオンライン開催の方が良いのではないかと。	オンライン、書面、対面など、各方式にそれぞれの利点があると考えており、今後も感染症の状況などにより適切な方法を考えてまいります。なお、今年度第2回の会議は対面開催の予定です。
「すみだ健康づくり総合 計画」 進捗状況について	全体	コロナで大変な中、ほぼA評価であり、素晴らしい。	コロナ禍においても、地域の関係者の皆様のご協力の下、様々な工夫をしながら多くの事業を実施することができました。
	全体	コロナ対策でもメディアで取り上げられるような取り組みをしていて、感心した。	医師会などとの連携による地域完結型医療体制(墨田区モデル)の構築、迅速なワクチン接種、東京都で484人が亡くなった令和3年夏の第5波での「区民死亡者ゼロ」など、様々な成果を挙げることができました。
	全体	コロナ禍の中、局面が変化していく情勢にもかかわらずその変化をよくとらえ、適切な後期計画が作られたと思います。区民の信頼も厚い今、がん対策などにより力を入れていただきたい。	がん対策については、「墨田区がん対策推進計画」において、がんによる死亡率の減少を目標の1つとしています。健康意識が高まっている好機を捉え、がんによる正しい知識の普及啓発をはじめ、がん教育やがん検診のさらなる推進を図っていきます。
	全体	だいたいA評価だが、継続的なモニタリングが必要である。	新型コロナウイルス感染症の影響を勘案して、計画通りに実行できたものをA評価としていますが、それぞれの事業の目標となる指標も見据えながら、有効性や効率性について評価し、必要な見直しを行ってまいります。
	概要版のⅢの「その他」 事業について	「感染症に影響により」→「感染症の影響により」ではないかと。	ご指摘のとおり修正いたします。

議題	該当箇所、事業	ご意見	回答
「すみだ健康づくり総合計画」 進捗状況について	概要版のⅥ(4)について	「子宮頸がん(HPV)ワクチン」という表記について、「子宮頸がん=HPV」ではないので、「子宮頸がんワクチン」、「HPVワクチン」または「子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)」のいずれかの表記が良いのではないかと。	ご指摘のとおりですので、資料については修正します。区民向けの案内(ホームページや広報等)についても確認を行い、誤解の生じないようにしていきます。
	Ⅰ-1 各種健康診査の実施	「一定の年齢を超えた高齢者には健康診断や人間ドックはいらない。病気探しはしない。自然体でいい。」という風潮があるようだが、これについてはどうでしょうか？	区では、毎年、後期高齢者医療制度の加入者を対象とした「75歳以上の健康診査」を実施しています。高齢期においては、身体を動かさないことで生じる「生活機能の低下」を予防することが重要です。そのため、定期的に健診を受診する必要性は高いと考えており、ひいては、健康寿命の延伸につながるものと考えております。これらのことから、「高齢者には健診が不要」という考え方は区として賛同できるものではありません。
	Ⅰ-32 総合型地域スポーツクラブの活動支援	身近な地域でスポーツに親しむことができ、地域住民により自主的・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブにおいて、事務局員交代及び会員減少等により、クラブ運営に影響が出る可能性がある。将来にわたる健全性を確保し、継続・安定したクラブ運営のためにもサポートをお願いしたい。	日頃から総合型地域スポーツクラブの担当者と連絡を取り合い、運営状況等を把握するとともに、総合型地域スポーツクラブの支援を行っているクラブルーム(総合体育館に設置)とも連携しながら、広報面での協力や情報提供をはじめ、必要なサポートを行っていきます。
	Ⅰ-72 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施にはフレイル予防の推進が挙げられると思うが、ロコモ対策についてはどうなっているのか知りたい。	ロコモ対策(運動機能の衰えへの対策)については、フレイル予防にも含まれておりまして、通いの場等での運動機能の測定と体操等の取組を行っています。
	Ⅱ-24 要保護児童対策地域協議会を中心とした連携・支援の実施	子どもへの虐待について、情報があつたとき、行政としては、どこまで対応できるのか。	虐待通告を受理した場合は、必要に応じて関係機関への調査や当該児童の面会、保護者への指導等を行っています。さらに、当該児童の一時保護等が適当と認める場合は、児童相談所と連携を図り、必要に応じて援助要請等を行っています。

議題	該当箇所、事業	ご意見	回答
「すみだ健康づくり総合計画」 進捗状況について	Ⅲ-11 精神障害者・家族への支援の実施など	両保健センターによる精神障害者のデイケア終了の方向であると聞いている。北部地域における相談支援が不足していると感じており、できれば北部地域で作業所を運営する特定非営利活動法人とらいあんぶるなどと連携して相談事業を充実していただきたい。	精神障害者の方のご相談については、両保健センターにおいて、今までと同様にお受けします。また、新保健施設への移行後も精神障害者家族会をはじめ、地域の関係機関と連携して相談機能を充実させていきます。保健センターによるデイケアは終了を予定していますが、相談事業の充実については、今後、ニーズを把握したうえで詳細を検討していきます。
	Ⅲ-54 災害時食支援ネットワークの推進	自助、共助もちろん大切ですが、区内各施設(避難場所に指定されていなくても近隣の古い家屋の人が逃げ込んでくることも予想されるので)に平時に基本的な物を配布しておいていただきたい。	現在、指定避難所39箇所以外に、区内27箇所に防災備蓄倉庫を設けています。また、毎年賞味期限が近くなった備蓄食糧品の一部を、町会や保育施設、関係機関等に配布し、活用いただいております。
	基本目標Ⅲの取組の方向性のうち「データヘルスの推進」	本年度に計画されているデータヘルスの推進に期待している。	今年度は、千葉大学等との連携で、健診などの検査データを利活用して、地域の健康度評価について共同研究を行い、健康度の見える化ツールの整備に取り組んでいます。
「墨田区自殺対策計画」 進捗状況について	全体	区で行っている事業の内容が多すぎて、どの情報が区民の方につながるのかが分かりにくい。さらなる相談窓口等の充実を図ってほしい。	自殺対策は、自殺しようとしている人を何とかするだけでなく、様々な取組を「生きる支援」として包括的に展開することとしています。そのため、各種の事業の中で、行っているという意味で、事業が多く掲載されています。対応する職員等が自殺対策の視点を持ち、おひとりおひとりに気づき、受け止め、つなぐことができるような体制を目指しています。
	Ⅱ 墨田区の自殺を取り巻く状況	墨田区の自殺死亡率について、H31、R2、R3は東京都、全国の死亡率より低くなっており、望ましい傾向だと思う。	墨田区の自殺死亡率はやや東京都、全国の死亡率より低くなっていますが、今後の状況に応じた対応を検討しつつ注視していく予定です。
	Ⅴの1基本施策の(1)地域におけるネットワークの強化	地域ネットワークをどこまで推進・充実していけるかが課題である。	地域ネットワークについては、年2回実施しているところですが、より広く関係者を取り込んでいくことを検討していきます。

議題	該当箇所、事業	ご意見	回答
「墨田区自殺対策計画」 進捗状況について	Vの1基本施策の(2) 自殺対策を支える人材 の育成	ゲートキーパー研修は各団体にあった対象者の対策に絞って開いていただくとわかりやすい。前回高齢者の自殺対策研修はよく理解されたようだ。それにしても70代80代の女性が35.7%には驚いた。日常生活ではその年代の女性はとても元気で活発の印象があるが、格差も大きいということなのではないでしょうか？	対象に応じた内容変更により、より理解が深まるよう講師と相談して実施し、普及啓発します。高齢の女性と話すことの多い職種等への普及を重点的に実施していきます。
	Vの1基本施策の(3) 区民への啓発と周知	高齢のひとり親が働きながら障害を持つ子どもと生活していたが、その子どもが相談する方法がわからないまま障害を苦しんで自殺したということがあった。その親の気持ちはいかばかりかと思う。確かに区報などで心の相談窓口は知っているはずだが、日々の忙しさで親もSOSを出しにくく、身近な相談窓口があるといいと思っている。もちろんゲートキーパーのことはわかっているが、区民はどの程度理解しているか、疑問である。また、一口に「自殺」といっても問題は多様なので、周知の方法が大切と思われる。	自殺対策の周知啓発は必要なところどこまで届けることができているかが重要なところです。ゲートキーパー研修も対象の特性に沿って内容を工夫しているところではありますが、まだまだ十分とは言えません。国の自殺対策推進センター等の研究結果や各関係者の分析をもとにより精度の良い周知啓発事業にしていきます。
	Vの2重点施策の(5) 児童・生徒・若者への支 援	重点施策の(5) 児童・生徒・若者への支援の「SOSの出し方に関する教育」の内容がわからない。外部講師による座学かどうか知りたい。またストラップ型リーフレット(ジン君)について具体的に知りたい。	「SOSの出し方に関する教育」では、文科省での教育指導要領に準じた自殺対策の一手である希求行動の啓発を行うもので、小中学校の教員と連携して、地域の保健師等が出向いて授業を行っています。”ジンくん”はお子様も手に取りやすい人形型のリーフレットで、相談窓口等の連絡先やQRコードが掲載されたものです。